



在京古高同窓会会報
第38号

〒113-0034
東京都文京区湯島3-20-9-707
佐藤清勝税理士事務所内
在京古高同窓会事務局
☎ (03) 5818-2673
FAX (03) 5818-2674
URL <http://www1.ttcn.ne.jp/~furuk>
Email zaikyo-furuko@mx5.ttcn.ne.jp
発行責任：曾根 研一
編集長：亀井 明
印刷：(株)ケーヨー

年頭のご挨拶

会長 高橋 俊裕



新年明けましておめでとうございます。
います。

平成十八年度在京古高同窓会総会
で三浦澄能氏の後を継ぎ第六代
目の会長に就任いたしました。今
後ともよろしくお願い致します。
引継ぎに当って、最大の課題は
会員の増加にあると伺いました。
考えれば考える程難しい課題です。
かつて青雲の志を抱いて故郷を出
た皆さんにとって、母校はどのよ
うな位置づけでしょうか。

小学・中学・高校・大学・就職
という流れの中で私達は変貌しま
す。今、最も近いところから並
べれば、上の流れを逆流すること
でしょう。高校生活は少年から成
人になる重要な過程ながら、思い
の外遠い所にあります。

私の高校時代の校長小埜 洋先生は古高創立六〇周年に当り、全校
生に「究之弥深」という言葉を下
さいました。忘れていた言葉を思
い出したのは社会人になった最初
の頃でした。単純・単調な業務に

追われていた時にふと浮かんだの
です。どんな事でも一生懸命にや
ってれば、奥が見えてくる。奥
が見えてくるとまた新しい世界が
出てくる。私はこう解釈してその
後の仕事着手の原点としてしまし
た。こうして仕事の中に夢を見つ
け出し、今日に至っております。

が、この事は同窓会とは関係が
ありません。私が大切に思ってい
るのはクラス会です。それぞれの
時代のクラス会は「究之弥深」に
毒されない前の自分を取り戻して
くれるのです。青雲ならぬ星雲を
語りながら、かつての自分を思い
出すことが、私の活力を生むもと
でもあると思っています。同窓会
を語るのには難しい。が、クラス会
なら参加できる人も多くありま
す。同窓会はクラス会を提供す
る舞台として、クラス会の集合体
にしてはどうかと提案をして、ご
挨拶といたします。ご意見をお寄
せ下さい。

古高生頑張るぞ

古川高等学校校長

山本 照夫



新年明けましておめでとうございます。
います。

在京同窓会の皆様には、お元氣
に新春をお迎えのこととお慶び申
し上げます。旧年中に賜りました
ご厚情に、改めて感謝申し上げます。
本年もよろしくお願い申し上げ
ます。

標題の「古高生頑張るぞ」は、
生徒昇降口に大きな字で書かれて
いるものです。私も毎日、この言
葉を見て、口ずさみ、元氣をもら
っています。生徒達も毎日、今日
も頑張るぞと気合いを入れてい
るところです。

今年男女共学が完成する年
です。約四割が女子ですので、全
生徒七百二十名中約三百名が女
子生徒になります。女子生徒も勉
強に部活動に生徒会活動に、力一杯
の活躍をしています。

この三月が男子生徒のみの最後
の学年、卒業式になります。そし
て、この四月から完全男女共学の
新しい古高の出発です。新たな気
持ちで古高を作っていく所存です。

昨年十一月二十日、宮城県高
等学校入学者選抜審議会が学区制
撤廃を答申しました。早ければ、
平成二十年度入学生、今の中学二
年生から実施の予定です。仙台圏
への一極集中が懸念されます。古
高としては今まで以上に進学実績
を向上させると共に人間教育に力

一在京同窓会メモ一

- ・会計年度は4-3月、年会費は一口2,000円です。
- ・会の健全運営のため、振替用紙が同封された方には、納入をお願い致します。
- ・次回会報第39号は2007年6月1日発行予定、原稿は常時受付。

を入れなくてはならないと心を新
たにしているところでは、

変化の時代にあつて、母校は頑
張ります。同窓生の皆様の変わら
ぬご支援ご厚情をお願い申し上げ
ます。

在京古高同窓会の益々のご発展
と会員の皆様のご健勝をお祈り申
し上げ、新年のご挨拶といたしま
す。

「螢雪二十八号」の 発刊に寄せて

古川高校同窓会
会長 渡邊 義之



新年明けまして、おめでとうございます。
在京古高同窓生の皆様方におか
げます。

益々ご健勝のことと心からお慶び
申し上げます。

皆様方には、常日頃、母校同窓
会並びに母校発展のため、多大な
ご支援、ご協力を賜っておりま
すこと、また、在京同窓生諸兄が
螢雪魂を礎とした絆をより一層強
め、活発に活動されておりますこ
とに対し、敬意と謝意を表する次
第であります。

お陰様を持ちまして、本部同窓
会も、各支部長さん等のご協力を

頂きながら、年々活動が活発にな
ってまいりました。

この夏に開催されました本部同
窓会総会とそれに続く講演会・そ
の後の懇親会では当番幹事の方々
や各支部のご尽力により、例年に
なく多くの同窓生が参加し、百三
十余名を超える状況でございます
た。

総会には在京同窓会の岩城副会
長さんをはじめ各支部の支部長さ
ん、歴代の校長先生にもご臨席を
頂き、大盛況の内に終了すること
ができました。

また、講演は東京大学大学院工
学系研究科教授荒川忠一先生(二
十二回生)から「風力発電の現在
と未来」と題した大変貴重なお話
を頂き、これからの我国のみなら
ず、世界におけるエネルギー問題
についていろいろ学ばせて頂きま
した。

荒川先生は旧岩出山町のご出身
で、その道の第一人者として、ご
活躍されておりますことは、同窓
生として誇らしく思ったのは、私
だけではなかったと思っております。

総会では、会費のことが討議さ
れ、在校生のみに会費を負担させ
ることは、もはや限界があるとの
一致した認識となり、平成十九年
の総会にはかり、同窓生諸兄から、
年会費を納入して頂くこととなり
ますので、在京同窓生諸氏におか
れまして、この旨をご理解頂き、
ご協力を賜れば幸甚です。

終わりに、在京同窓会が高橋会
長さんを中心として益々ご発展さ
れますことを祈念申し上げ、ご挨拶
と致します。

本部同窓会だより

近況報告

本部同窓会事務局だより



事務局長 大山 義男 (昭和56年卒)

新年明けましておめでとうござい
ます。日ごろ、本校同窓会の活
動に対してご支援ご協力頂き誠に
ありがとうございます。

昨年中は、各種新聞テレビ等で
全国の高等学校における必修教科
科目の未履修問題に関して報道
され、いろいろとご心配をお掛け
致しました。本校におきましても、
必修科目「情報A」を一部の生徒
を除き「数学演習」で代替して
おりましたことが、不適切である
と県教育委員会から指摘され、修
得に向けて十一月一日から補充指
導が始まっております。大手予備
校のない地方都市で、受験に対応
できる実力をつけるべく始まった
「演習」への取り組みでございま
したが、結果として生徒に不安を
与える状況を招いてしまい、心か
らお詫び申し上げる次第でござい
ます。受験を間近に控えた生徒の
負担とならぬよう配慮しながら授
業を行い、二月までには終了する
予定です。

センター試験が始まり、その後の
二次試験の準備に向けてラストス
パートを掛けている状況です。今
年度も生徒は朝学習から始まり、
八校時、九校時目の課外を受け、
さらには土曜講座等にも熱心に取
り組んでおります。まだこの時期
は、推薦入試が始まったばかりで
すが、例年通りの成果をあげてお
りますので、必ずや昨年度以上の
成果を挙げられると期待しており
ます。

昨年の在京同窓会総会には、本
部から山本昭夫校長、渡邊義之
同窓会長、事務局長として私の三
名が参加させて頂きました。昨年
はソフトボール部の二年連続イン
ターハイ出場ということもあり、
突然のお願いでありながら、当日
会場にて多大なるご寄付を頂きま
したと、この場をお借りして御
礼申し上げます。

また、昨年の本部総会の節には、
在京同窓会から副会長の岩城光將
様はじめ、多数のご出席を賜り感
謝申し上げます。渡邊新会長のも
と、新しい同窓会の体制を示すべ
く、現在抱えている財源の問題に
踏み込んで話し合いが持たれまし
た。今後、同窓会員皆様に会費の
お願いをすることになると思われ
ますが、次期総会で規約改定の上
実施して参る所存ですので、何卒
ご理解ご協力のほどよろしくお願
い申し上げます。

また、昨年は六年ぶりの名簿発
行ということで、名簿集約に対し
て各支部はじめ、いろいろご協力
頂き誠にありがとうございます。
個人データを扱うということでは、
掲載確認等いろいろとお手数をお
掛けいたしました。深くお詫

び申し上げます。今後の会員相互
の親睦、連絡にご活用願えればと
思っております。なお、昨今の個
人情報の取り扱いの問題もありま
すので、十分ご注意の上、ご活用
のほどよろしくお願ひ申し上げます
。重ねてお願いではございます
が、今回発行の名簿には五十五名
から一切の名簿削除(氏名・住所
等)の要望がありました。本人の
ご希望で削除させて頂いておりま
すので、決して本部の見落としや
落丁ではないことを併せてお知ら
せ申し上げます。

同窓会の活動は各支部の皆様
に助けられながら運営されておりま
す。在校生の益々の活躍と同窓諸
氏の親睦を目指して頑張る所存で
すので、今後ともご協力ご支援の
程よろしくお願ひ申し上げます。



平成18年度 古高同窓会総会 H18.8.6 於 グランド平成

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

厚生労働大臣認可・人材派遣業 (般13-300435)

代表取締役
会 長 渡 邊 道 雄

S28年卒 (鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-7

ロータリービル6F

TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585

東京営業部 (03-5364-5251) 神奈川営業部 (0462-77-0791)

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

内科・小児科

長井内科

院長 医学博士

長井 弘 策

[昭和31年卒(高8回)
古川高校同窓会副会長]

〒989-6154
大崎市古川三日町1-3-25
TEL 0229(91)1020



Motto

- 旅の安売りは危険、安心安全が第一そして旅から多くを学ぶこと
- 机上の安売りプランではなく、足であるいた経験のプランを提供
- 人生は旅のようなものであり、旅もまた人生のようなものである

あなたの夢を実現するためのお手伝い

中鉢 泰平(昭和37年卒)

- 1.宮城県玉造町鳴子町川渡村黒崎出身、古川高等学校(野球部)卒業後、京都の大学で海外事情研究会所属
- 2.大学卒業後東急航空(現東急観光)時代から国内・国際社会を舞台に現在まで世界旅行業界歴40年間
- 3.特にすぐれた世界の教育・医療・福祉をふくむ各業界の専門分野の視察・研修を手がけ情報を提供し、みずから添乗も行ってきた。世界文化遺産からその国々の観光から体験学習などの国際交流、学会など六か国語を駆使し、あらゆる国々をめくり、添乗(ツアーコンダクター)回数300回を超える
- 4.長年の旅の出会いにより、日本全国に親愛な顧客を持ち、世界各国に多くの友人知人を持っている
- 5.旅を通じ国内世界を問わず、人との出会いを大切に思い、現会社を設立し、代表取締役社長を務める
- 6.日本イタリア連絡協議会理事・在京鳴子町人会代表・在京宮城ふるさと協議会常任理事・みやぎの夢クラブ常任理事・(財)日本さくらの会会員やふるさと小・中高同窓会幹事及び大学同窓会役員を務める



株式会社インターナショナルヒューマン トラベル

〒164-0001 東京都中野区中野2-29-15-204
TEL・FAX 03-5385-3693

第1号議案 平成17年度 活動報告

第3号議案 平成18年度 活動計画案

年月日	活動内容
平成17年	
5月21日	会報「蛭雪35号」と総会案内発送
6月25日	定時総会、講演会、懇親会 講演講師 宮城教育大学副学長 鈴木清美氏 (S28年卒) 演題「教育における不易と流行」 ～新生古川高校の発展を期して～
8月7日	本部同窓会総会出席 (三浦会長、横山・春田副会長、佐藤事務局長)
12月17日	会報「蛭雪36号」と四校合同新年会案内発送
平成18年	
1月14日	「第13回古川市内四校関東同窓会 新年の集い」開催
3月1日	古川高校卒業式並びに 「東京蛭雪賞」表彰式出席 (三浦会長)
◎役員会 平成17年6月11日・10月15日・12月17日・平成18年3月25日	
◎四校合同幹事会 平成17年10月31日・12月22日・平成18年1月6日・2月14日	

年月日	活動内容
平成18年	
5月21日	在京古高同窓会総会出席 (横山副会長)
6月3日	会報「蛭雪37号」と総会案内発送
7月2日	定時総会、講演会、懇親会 講演講師 古川高等学校校長 山本照夫氏 演題「古高の現況と未来」
8月6日	本部同窓会総会出席 (岩城副会長)
12月16日	会報「蛭雪38号」と四校合同新年会案内発送
平成19年	
1月13日	「第14回四校合同新年会」開催
3月1日	古川高校卒業式並びに「東京蛭雪賞」表彰式出席
◎役員会 定例は年4回、その他必要事案により関係役員会を開催	
◎四校合同幹事会 10月中旬から1月上旬にかけて3～4回開催する。	

第2・4号議案 平成17年度決算/平成18年度予算

収入の部

科目	H17年度決算額	摘要	H18年度予算額
年会費	843,000	365名 421.5口 @2,000	820,000
広告料	160,000	企業・個人広告	180,000
寄付・祝儀金	18,000	個人寄付	20,000
雑収入	107,624	預金利子、総会・新年会剰余金	150,000
収入計	1,128,624		1,170,000
前期繰越金	2,981,751		3,012,908
合計	4,110,375		4,182,908

支出の部

科目	H17年度決算額	摘要	H18年度予算額
会議費	97,219	役員会 会場使用料他	100,000
印刷費	502,708	会報、案内状、封筒他	550,000
事務用品費	28,507	コピー、文具代	30,000
事務所経費	30,000	年間契約料他	30,000
通信費	215,785	電話、切手、はがき	280,000
慶弔費	38,600	東京蛭雪賞、祝儀、香典	50,000
活動強化費	0	組織活動強化費	100,000
旅費交通費	158,428	本部総会、卒業式等	120,000
雑費	26,220	会費払込手数料他	30,000
支出計	1,097,467		1,290,000
次期繰越金	3,012,908		2,892,908
合計	4,110,375		4,182,908

新会長略歴

高橋 俊裕

富永出身、昭和33年古高卒、東京大学法学部を卒業後、昭和39年トヨタ自動車販売(現トヨタ自動車)に入社。昭和63年人事部副部長、その後、人材開発部長、人事部長、取締役生産管理部長、常務を経て、平成11年東京トヨペット社長。平成13年トヨタアドミニスタ社長。平成15年から日本郵政公社副総裁。

新副会長略歴

大友 正行

松山町出身、昭和33年古高卒、昭和38年慶応義塾大学文学部卒業、印刷関連の会社で40年間勤務。平成13年ビコー印刷(株)の専務取締役で退任。趣味はゴルフ、高校時代より続けているソフトテニス(現渋谷区ソフトテニス連盟理事)、音楽(モダンジャズ)鑑賞。愛読書「樞の木は残った」(山本周五郎)。妻、長男と渋谷区に在住。



会員による自由投稿

戦時下の

旧制古中44回生の青春
昭和20年卒 高橋 昭典



藤原正彦教授の「国家の品格」に、「旧制中学、旧制高校はエリート養成機関」「真のエリートの要件は、第一に文学、哲学、歴史、芸術、科学といった何の役にも立たないような教養をたつぷりと身につけていること、第二にいざとなれば、国家、国民のために喜んで命を捨てる気概があること」だと書いてあった。

私は旧制古川中学44回生で、昭和十五年四月入学、昭和二十年三月卒業の五学年制最後の期の生徒だが、旧制中学は果たして藤原教授の言われるように「エリート養成機関」だったのかなという気がして、当時の旧制中学生時代を回顧してみた。

(1)旧制古川中学は宮城県立第三中学校の後身で、宮城県では仙台一中、仙台二中に次ぐ県立名門校。大崎四郡(志田、遠田、加美、玉造)で唯一つの普通科中学で、四郡三十六ヶ町村から一学年に僅か三組一五〇人だけが入学できたという狭き門。しかも毎月の月謝の五円は旧制中学卒の初任給が月四

〇円の時代では高額の「一」誰もが入れると言わなければならない。だから私達はエリート面してマント、高足駄で「大崎大学」と豪語して憚らなかつたし、市民の方も大方これを許してくれた。

(2)二年生の昭和十六年十二月八日に太平洋戦争が勃発し、音楽の時間が「庭の千草」から「故郷」、「空の神兵」に変わり、「体育」に手榴弾投擲が加わったが、私達は二年生まではフルに旧制中学の生活を満喫でき、国語・漢文では十八史略や方丈記もみっちり教えられた。制服は、色は黒色からカーキ色に変わり巻脚絆だった

が、学帽に白線二本、詰襟の学生服にマントと足駄で闊歩と言うところは旧制高校生そっくりで、応援歌にも「彼に孫呉の術あらば我に竜虎の智勇あり」と漢文の素養がチラリ、憂国の志士気取りでの放歌・放吟も若さ故と許された。また当時は武道(剣道または柔道)は必須科目で、霜を踏んでの一週間の早朝寒稽古は辛かったし、観覧禁止の映画「愛染かつら」をマント変装でみて、翌日上級生から校庭裏の狭窄射撃場で鉄拳制裁を受けたこともあった

が、先生に仇名をつけたり、難しい質問を準備して担当先生いじめをやったり、天井裏で煙草の悪戯をしたりで茶目気も十分あったが、結構自由を謳歌できた。

(3)三年生からは本当の戦時らしい教育体制になって、陸軍中佐の配属将校の軍事教練は厳しくなり、陸軍大佐(自衛隊の二等補佐、連隊長)の教練査閲が行われたり、短距離マラソン、十哩マラソンや王城寺原演習場への全校行軍(往復十里)、冬のスキー教練実施と厳しいものになってきたが、勤労奉仕では、①農家の田

植え・除草・稲刈りに各一週間、②冬の中山平での製炭作業と積み出しに一週間、③山から粗朶を切り出して水田地帯の暗渠排水工事をするのに一週間ほど駆りだされたりした。でも庄巻は五年生の時の学徒勤労

動員。全員が昭和十九年五月から昭和二十年三月の卒業まで十一ヶ月間(進学組、農業従事組及び教員志望組を除く)他のものは動員期間が延長され二十年八月まで十六ヶ月間)勤労動員され、全員が仙台市原町の陸軍原町造兵廠で兵器生産に従事することになって、全員若杉寮で起居した。

以上のような経緯で、44回生は「五年制だが実際には四年余の学業しか受けないで学窓を後にした」ということになるが、旧制中学のよさは一通り体験できたと思う。

(4)それから私達の期の特徴は、学窓から陸軍と海軍に入隊する制度ができて、陸軍特別幹部候補生に五名、海軍甲種飛行予科練習生に七名入隊したことである。つまり十二名が国家のため命を捨てようと軍隊を志願したのである。「古中・古高百年史」に「昭和十八年九月海軍飛行予科練習生学窓より入隊」とあるが、同級生の高崎秀君は最初の海軍甲種飛行予科練習生入隊者で偵察機搭乗員として実践に参加したし、陸軍特別幹部候補生入隊(航空整備)の都築正雄君は北満の飛行場で訓練中に殉職し、満州国軍官学校入校の福田文彦君は三年間シベリヤに抑留され健康を害した。

これは余談だが、特幹・予科練の入隊者が出発するときは、出征兵士並みに古川高女の生徒が古川駅で日の丸の小旗を振って見送ってくれたし、私達も予科練入隊の同級生を囲

み、徹夜でフアイヤーストームをして別れを惜しんだ。またこれは私事だが、当時軍学校入校者には「古川高女の正門に放尿してゆけば必ず生きて還れる」という伝承迷信があった、私は海兵入校の友人と薄暮の闇に乗じて実行したが、これは全く靈験新たか二人とも無事生きて帰れた。特に陸軍航空士官学校の私は操縦訓練のため七月末に渡瀟して一ヶ月間北鮮と南鮮で生か死かの苦勞をし、三回ほど半日差でソ連兵に捕まらず命拾いして無事帰れたが、これは高女の門の守り神のおかげ、学校には申し訳ないが今でも感謝している。

(5)最後に44回生の進学状況。44回生は数多くの勤労奉仕と長期間の勤労動員で四年余の学業しか受けられなかったが、2つの受験組は頻繁な学力模擬試験で鍛えられたので、結果は次の通り上々で五十七名が進学。皆よく頑張った。

- ①軍学校(八名) 陸軍士官学校四名、海軍兵学校四名
- ②国公立の高等・専門学校(三十二名) 高等学校五名、工業専門学校十三名、医学専門学校四名、農業専門学校二名、薬学専門学校三名、経済専門学校一名、外語専門学校一名、高等商船学校一名、鉱業専門学校一名、高等無線学校一名
- ③師範学校(八名) 宮城師範八名
- ④私立の高等・専門学校(九名) 東北学院四名、その他五名

以上考えてみると藤原教授の旧制中学エリート養成機関説は的を射た指摘。私は改めて旧制古川中学に学んだことを誇りに思った次第である。

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士



ISO(品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
-0001 TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

“アウトソーシングを支援する”

パルスタッフ株式会社

厚生労働大臣認可・人材派遣業(般13-300435)

代表取締役 渡邊 道雄

S28年卒(鹿島台町)

本社 〒166-0002 東京都杉並区高円寺北2-4-7

ロータリービル6F

TEL 03-5364-5251 FAX 03-3330-7585

立川営業所(042-528-8585) 神奈川営業所(0462-77-0791)

E-mail: m.watanabe@palsbk.co.jp

二期会の同級会の報告 昭25年卒 工藤英二郎

第二回(昭和二十五年)卒の本年度の同級会を東鳴子のニューアにおいて十月の三十、三十一日の両日行われました。折からの好天で平日にもかかわらず鳴子峡に行く車の列で一杯でした。

今年(昭25)は東京より七名が参加し、全部で二十三名の出席でした。恩師は鈴木先生一人が出席されました。毎年出席されておりました庄司先生が一月に亡くなられました。今年(昭25)は古川が当番ですので、武田君の司会で始まりました。物語者に対し、何時ものように黙とうを捧げ冥福を祈りました。

片瀬会長の近況報告、鈴木先生の挨拶で始まりました。卒業から早くも五十六年の月日が経ってしまいました。旧制の古中入学、毎



二期会の面々

日開墾、鉄道の砂利積み、松山、鹿島台の複線工事、農家の手伝いといろいろさせられた学校時代の懐かしい思い出話を語り合いました。旧制の五年で卒業した友も多くなりました。五年、六年間の勉強は本当に深い絆で結ばれ、人生での最大の宝物と思っております。話は今回も尽きず、一晩語り明かしました。翌日は東京から来た中島君と中山平で長らくリハビリ中の鳴子出身の佐々木禎一郎君を見舞いに行きました。

さて我々も七十代後半に入り、同級会のやり方などの話も出ておりますが、次回は今年のように行う予定で、当番は仙台です。

古川三校柔道部OB会開催 昭27年卒 春田 紘輔

第一回在京古川三校柔道部OB会が平成十八年十一月二十一日(火)十六時からJR田端荘で開催されました。従来古高だけで平成三年から開催されてきたのですが、四校新年会が定着してきていることから、柔道部も合同でという皆さんの希望が高まり、今回実現したものです。

そして今回は、故郷で柔道を通じて鍛えた者達の一層の発展と親睦を高め、四校会にも何らかの貢献をしたいという希望の大結集であります。

またさらに、今年の全日本選手権大会に、古川学園出身の佐藤選手が東北代表で出場したこともあり、気運の高まりも強くありました。

懇親会は、古高から春田以下八名、古工からは、渡辺貞夫(29年)以下三名、古学園からは石川信行(40年)一人合計十三名でしたが、これは初めての集まりであったことと、平日十六時という設定に問題があったようで、次からは、環境を整え、広く出席を呼びかけることといたしたく考えております。会場は、広い個室で酒も料理も飲み食べ放題で、昔の高校生に戻って、お互いの柔道歴やその後の得意話で盛り上がり、延長戦に入る状態でありました。



古川三校柔道部OB会

出席者は次のとおりであります。

- (古高) 遠藤(26) 春田(27) 加藤源(28) 三浦昭(30) 佐々木豊(30) 佐々木寛(31) 高橋清(32) 北村(35) 早坂時(51) (工業) 渡辺貞(29) 鈴木正(30) 佐藤喬(32) (古学) 石川信(40)

なお、今回出席できませんでしたが古高側から仙台の堀越八段(30)、古川の小林六段(50) 学園側から全日本出場の佐藤選手と警視庁署長を勤めた川名六段(37)にも

草津温泉一泊旅行

昭30年卒 岸 康男

出席していただきたいということ終了となりました。

十月二十一日(土) 九時JR東京駅丸の内北口に30年卒同期生15名が集合、送迎観光バスに乗り込み、一路草津温泉へ向けて出発。車中ラウンジでビールで乾杯し、秋の一泊旅行が始まる。

途中、佐々木豊さん、堀越五郎さん、さらに瀬戸順悦さんが合流し、参加者は18名となる。今回の旅行は高崎在住の佐々木豊さんが事前に現地を下見して、旅館と観光コースを選定したスケジュールに従う。

鬼押し出し園で溶岩奇岩を見物した後、バスは紅葉で彩られた山々の道を進み、草津温泉街に入る。湯の香りが漂う「湯畑」の前の旅館遠州屋に到着。向側にある「熱の湯」で「草津よいとこ」一度はおいでドッコイショ」で有名な草津名物の湯もみシヨを見物。

温泉で汗を流した後、全員で記念撮影して宴会場へ。現在も後輩の指導で多忙な折、仙台から参加した堀越五郎さん、現役で活躍中の三浦昭五郎さん、佐々木豊さんと在学中柔道部で活躍した3名が揃う。

岩城会長の乾杯の音頭で宴会が始まる。長岡出身の堀越さんとは幼稚園から一緒だったという中沢さんの話に爆笑し、相原さんの出身地色麻の由来にまつわる話に大笑。松山出身の横山(旧姓相沢)

武さんがフランク永井の「夜霧の第二街道」を唄い、会は大いに盛り上がる。

曾根さんの指揮で校歌を斉唱し、最後は手締めで終わる。部屋に戻り二次会が始まり、高校生活の思い出話が夜遅くまで続く。

翌日8時半バスは宿を出発し、横山山へ向かう。朝霧の中を進み、高度を上げると雲海が眼下に見え、下界を見下ろす景色を堪能する。横山山入口でリフトに乗り山頂へ登る。

山頂ロッヂから360度のパノラマの眺めはすばらしく、秋晴れの下遠く栃木、長野の山々を眺望できた。更に白根山に登り山頂の「湯釜」の青い湖面を覗く。

山を下り、バスは木漏れ日に映える紅葉の林の中を通り、快適なドライブを楽しむ。途中、清水が岩の間から染み出る白糸の滝を見物する。JR軽井沢駅で堀越・佐々木豊両名と別れ、バスは高速道路に入り、帰路に着く。楽しい同期会であった。



首都圏古高30年卒同期会

サンデー毎日でも新しい朝日

日本百名山再開と青春18切符旅
昭37年卒 千坂孝夫

勤めを九・五合目で退き、三年間鬱々としていたが、軸が以前より良くなり(友人、言)、全開の〇六年を過ごした。

新米(ひとめぼれ、といきたいが。寒!)主夫としての基本の押さえを披露。

早寝早起き(間違っても)深夜便(は聴かない!快眠)、腹八文目、酒は円熟〇・五杯、(もともとはこれでは足りない方が多い)。快食とくればあと一つ。実はこれが一番大事(定時に)。つまり、基本は規則正しく。

3時の体内目覚まし時計(遠慮なので、遅めに書いた)。朝?風呂、麦茶、前日の新聞の切抜き、緑茶、朝刊読み、コーヒー、4時半のニュース(ニュースとしてはこれがベスト、寺澤アナをNHKの顔になると予言、当たり!)。洗濯(6時からと言われているが待てない!)。ゴミ出し(平日は毎日あり)、ついでにポスト投函(お便り、各種申込みコメント上手?故、ラントイエで二回、地域新聞でのコンサート鑑賞券等当りの確率上々、妻にも恩恵あり!ペア券)。帰路、街路のゴミ拾いと草取り(散歩の人は挨拶してくれるが、犬連れはダメ)。インコと植物の世話、7時妻起床。7時半食事。娘と上さん出勤後の掃除機駆け。後はTBS「悠々ワイド」一日替わりゲストがいい、人生相談がおもしろい!毒

マムシのパバアとナンフ。ダが楽しい。(近くのヨークマート)に来た時に覗いたら、なんと店長賞のフルーツ盛合せをゲット)。正午は日テレ「思いつきりの頭」みのかめら。放送の翌日、池上本門寺を訪ねたが大変な人出だった。昼食はセルフ。カップ麺は卒業。とても人には出せる料理ではないがそれなり(二〇〇円の円熟付)。昼寝はしない。

外出の基本は自転車。図書館、近在三つの公民館の各種講座(環境問題、中国語、史跡巡り等。さすが、寿学級は初回参加のみでリタイア、何故?若すぎ!)、スーパー、リサイクル店、本屋(ブックオフがいい)。東京ベイライン散策—マリンS、メッセ、稲毛の浜。お祭り見物—多いです。東京JR又はメトロ一日券—東京への用事の際はいろいろ巡り。四季のパスツアー—高遠の桜、豊平の高山植物、紅葉の養老溪谷、いづれも平日。多忙人の邪魔はしない。よって、週末は原則家。

同窓会・OB会関係への出も完全復活。月の小遣いに比し、一回の出費は多いが、一度に多くの友人・知人と会える。但し、趣味の範囲の会出席はもうダメ(金力の体力不足)。

そんな中であって「山」は別もの。五年ぶりに深田日本百名山踏破を再開。足慣らしは古巣の「鹿沢」から、やっと実現の「故郷の名峰船形山」(七月二十一日、ブナの森が印象的)を経て、翌二十二日「岩手山」。十月十二日には米寿の山、利根川源流の「平ヶ岳」。一時は「もう、登れない」とあきらめ

かけた山登り(足腰は使わないと確実に衰える)。

「青春十八切符」での旅再開も元氣復活の証拠。春は妻と日立、岡崎と初桜の旅。夏は盛岡から札幌・旭川の先輩友人墓参。「クラークさん」とも四十五年ぶりにご対面(あの時は杉野目学長のお話だった)。九月は皇太子と同時期の山形。斎藤・土門の両記念館、「蟬しぐれ」の里。ウーン、やっぱり山形は今も「アルカディア」(理想郷、鶴岡の「アルケッチャーノ」、情熱大陸後は予約で満杯。恐るべし、テレビ力!)。皇孫誕生に併せ、三輪山、上・下鴨神社、伏見稲荷、桃山御陵(何のことはない、拝観料不要)とエキゾチック大阪の旅。この号が出るころには十八冬版「香川・徳島の旅—日本のクリムトとの再会、バルトの楽園・坂東訪問」を済ませての新年に。今年のテーマは、「食うかい」(正しくは「空海」)。

というところで、上さんも安心。パートを楽しんでいる?様子。「何とモ?」いや「立派な準公務員」。でもやっぱり小遣い不足は否めない。仕事をするにも新聞販売店での折込広告作業が唯一の可能性。週二回「朝日」で働くか。「新しい朝日のために」。お後がよろしいよう。

私(千坂)は旧制第二高等学校同志同窓会の監事を勤めています。学校は昭和二十五年の卒業生をもって東北大学に引き継がれ、最後の卒業生も七十五歳を過ぎています。同窓会は年会費四千円で、現在も活発に活動しています。(名簿完備)古川高校同窓会も年会費の徴収を

会員通信

検討されたらと思います。(在京ではなく、校として) (S18豊嶋松三)

今回の雪雲会報(三十七号)、よくできていますね。情報がよくわかり、助かります。 (S20高橋昭典)

元気に仕事を続けています。インフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチン、抗インフルエンザウイルス等、がそのテーマです。仲々長崎よりでかけるのが大変なのですが、この度は機会に恵まれます。 (S22松本慶蔵)

先ずは四年間の会長職を終え、立派な人材にバトンタッチできそうです。地域のボランティア活動に忙しい毎日ですが、前向きに研鑽を積んで参ります。同窓会が、もっと門戸が開かれるようお互いに努めたいと思います。 (S24三浦澄能)

「雪雲」いつも愛読しております。ドイッチェ・芳武先生の計報を読むとお世話になった若い日のことなど強く思い出します。(合掌) (S28山田四郎)

同窓会事務局の皆様いつもありがとうございます。第三十七号「雪雲」拝読させていただきました。今後も同窓会が、よみがえる青春でありますように盛會を祈念しております。(S29岩淵瑞穂)

「郵便基」にはまっている。ハガキを使って一手ずつ着手しながら対局するもので、まことに時間のかかる囲碁であるが、棋書を見ながら打つことも可能で、定石の勉強にもなる。念願の三段になった。九月(十八年)からは全国の会員七〇〇人に発行(年四回)する会報(十二頁)の編集を担当する。 (S30木村哲彌)

相澤政宏氏に感謝。四校新年交歓会では素晴らしい演奏を堪能させて頂き、懇親会の席で、リコーダーの高音域を吹くときの指使いについてアドバイスを頂きました。以後、「グリーンズリクス」の曲を連日何十回となく繰り返し練習し、お陰様で三月末、上尾市の合唱祭で、さる女声合唱団の伴奏を勤めることが出来ました。これを契機にまた励みたいと思っております。この場をお借りし厚くお礼申し上げます。 (S32原 清三)

①札幌にいます。②古高大先輩杉野目元北大学長のご子息(北大名誉教授)とお話しをしました。③札幌在住の同窓生が居ましたら教えて下さい。④十八年三月末日まで宮城原札幌事務所長は古高S45年卒の遊佐勝君(鳴子出身)でした。(S33森合拓夫)

●二年サンデー毎日。昭三十一—三十二年頃の恩師の消息を知りたい。会長に高橋俊裕君を推薦します。(S33山本道也)

●何時もいろいろ御世話になっております。予定では七月末か八月(十八年)には中国勤務を終えて戻る予定です。(S36大曾根秀憲)

●五月に帰省した折、母校に足を運びました。校舎を見てみると先生や同級生の顔が彷彿と湧いてきて、懐かしさに包まれました。校庭ですれ違った生徒さんにお辞儀をされ、礼儀正しさに感心しながら、母校を後にしました。(S36長井 清)

●私事、野球部に所属していた一人です。高橋先生の御逝去、ただただ残念でございます。葬儀にも参列することが出来ず、大変申し訳なく、今はただ、ご冥福を祈るばかりです。(S37穴戸照男)

●三年の役(厄)を通過し、「ラントイエ」の日々です。(S37千坂孝夫)

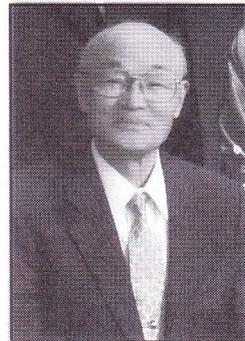
●卒業以来、初めての案内を戴き、又、(総会に)初出席となります。兄達(三人)体調不良にて、小生参加後の報告をする予定です。(S38大曾根 昇)

●沖縄勤務も三年目に入りました。那覇検疫所ホームページを是非アクセスして下さい。御意見歓迎。宮本画伯の御清浄を祈念します。(S38厚生労働省那覇検疫所阿部重人)

●昭和四〇年以降の同窓生の参加が、これから同窓会発展のキーポイントだと思えます。(S46上野総合事務所税理士高橋 淳)

●ごぶさたしております。二〇〇四年四月より盛岡に単身赴任しております。古川は通過するだけになっておりますので、今度は途中下車して「母校」を訪ねたいと思っております。(S55盛岡大学鈴木健之)

庄司芳武先生をしのぶ会



故 庄司芳武先生

満八十七歳の誕生日を目前にして、平成十八年一月七日に逝去された庄司芳武先生をしのぶ会が、八月十二日に大崎市のグラント平成で行われました。当日は古高卒業生のみならず、声楽やピアノを教わった一〇〇名を越す大勢の方達が集いました。

発起人代表の友川廣人氏(昭和31年卒・元古高他音楽教師)が挨拶のあと、古高合唱団出身の佐々木敦氏(昭和37年卒・元NHKアナウンサー)の司会で、同氏が作詞し、佐藤公一郎氏(昭和38年卒・元仙台一高他音楽教師)が作曲した合唱曲(後記)を、友川氏の指揮で、古高音楽部OB有志が演奏(男声四部合唱)して追悼コンサートの幕が開きました。

そのあと、先生が指導なさっていた女声合唱団や、教えを受けた高橋真美さん(鳴子出身・ソプラノ歌手)、浅野繁氏(小野田出身・ピアノニスト)の演奏が続ぎ、会の後半は大橋靖彦氏(昭和36年卒・元古高他音楽教師)の司会で、関わりのある方々の想い出話等があり先生のご遺徳を偲びました。

「庄司マジック」にはまり、音楽大学に進んだのは、古高生以外も含めて一〇〇名近くに上るそうです。音大には進みませんでした

が、生涯を音楽業界で過ごしている筆者も「庄んつあーんの遺伝子」を受け継いだひとりですので、これからも、冥界からお導き願いたいと思っております。(曾根)

風になって 光になって

ー亡き庄司先生を偲んでー

佐々木 敦 作詞
佐藤 公一郎 作曲

花咲き実る 豊かな大地が
春を待つ 夜のしじま
舟形おろすと 吹き渡る
耳を澄ますと なつかしい歌が聞こえる
風になった あの一ひとの 歌声が
慰めと 励ましと 空に 満ちる

広い草原 繁れる森が
日の出待つ あかつき闇
荒雄の流れ きらめいて
目を凝らすと 指揮をする手が 見える
光になった あの一ひとの タクトが
歌声を 集めて 海を 満たす

風になって
光になって
あの一ひとは
いつまでも
どこにいても
生きています

お知らせ
第14回旧古川市内
四校合同新年会

- 日時：平成19年1月13日(土) 11:30~15:00
- 会場：上野精養軒
- 会費：8,000円
- 新春コンサート
出演：古川工高吹奏楽部

交通案内：JR上野駅公園口より徒歩5分



上野公園4番58号
電話 (3821) 2181

心よりご冥福を
お祈りいたします

- 千葉 忠志氏 (昭12年卒) 平成18年9月6日
- 長谷部次夫氏 (昭26年卒) 平成18年5月8日
- 宮本 忠美氏 (昭26年卒) 平成17年9月11日

編集後記

今回も忙しい中、皆様のご協力のおかげで蛍雪を完成させることができました。特に(株)ケーヨー技術部の飯沼さんは、蛍雪の経緯等も熟知されており、大まかな台割を示し、原稿を送りさえすれば、ほぼ完成形に近いものを作っていただけのため、実質的に編集の仕事の一部もお願いしている状況であり、その分、編集サイドの労力も少なく済んでいるため、この場を借りて感謝申し上げます。

総会等にご出席経験のある皆様はお気づきかと思いますが、およそ昭和四十年以降の卒業生の参加が極端に少ないという問題があります。これは、私がこの同窓会に関わ

り始めた十年前と状況が全く変わりません。平成十九年は昭和八十二年にあたりますが、直近四十年間の卒業生の参加者が何人なのかと数えると、甚だ薄ら寒いものを感じます。

二〇〇六年度より体制が変わり、役員会においても長年懸案であった、若年層の取り込みに関して、今までも踏み込んだ施策について議論すべしという意見が大勢となっていました。これを機会にOBの皆様からの活発なご意見を賜りたいと考えております。

一方、IT技術を活かした、低コストで可能な同窓会運営も同時に考えていかねばなりません。今年中のメーリングリスト開設を手始めに地道にスタートさせたいと思います。(亀井)

佐藤 啓三

(S40年卒 中新田)

中小企業診断士・ISO審査員・エネルギー管理士

ISO (品質・環境)・技術・経営
コンサルティング・グループ
株式会社 経営技術機構 所属

〒105 東京都港区虎ノ門5-3-20 仙石山アネックスビル1階
-0001 TEL 03-5425-2491 FAX 03-5425-2492
自宅 〒241-0004 横浜市旭区中白根2-22-19
携帯 090-1438-9132 E-mail FZN04730@nifty.ne.jp

税理士 青沼康男
不動産鑑定士

(昭和19年卒)

〒108 東京都港区芝4-6-16 ライオンズ三田805-0014
TEL 03-3452-2004
FAX 03-5476-8006

情報処理のエキスパート 完成図書・デジタル化総合サポート

電子納品作成支援
おまかせください!

導入から成果品まで専任スタッフがきめ細かく対応しバックアップいたします。

専任スタッフ・有資格

CALS/ECインストラクター	4名
電子化ファイリング	5名
ファイリングデザイナー	2名
文書情報管理士	5名

代表取締役会長 早坂清吉 (昭和29年卒)

株式会社ケーヨー http://www.keyo.co.jp E-mail:info@keyo.co.jp
本社 〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-1-6
☎03-3242-0191 FAX 03-3242-0167